



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区
いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 越田和俣充
幹事 小澤 啓一
SAA 鈴木 雅之
会報小委員 遠藤 洵

○例会日 毎週水曜日 (12:30 ~ 13:30) ○事務局 TEL/FAX (0246) 56 - 3473
○例会場 ホテルミドリ E-mail: info@iwakinakoso-rc.jp

第 2831 回 例会 令和 2 年 9 月 30 日 (水・晴)

2020 - 21 年国際ロータリーのテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

ゲスト
長久保赤水顕彰会
会長 佐川 春久 様

ロータリーソング 我等の生業
— 今月は基本的教育と
識字率の向上月間です —
4 つのテスト
高橋 伸安 会員



◎会長報告—越田和俣充会長

皆さん、こんにちは。この所隔週での例会が続いておりましたが、毎週会っていないと私の頭では忘れてしまいそうで心配しております。先日の例会で秋の気配の話をしました。もう富士山や北海道では初冠雪のニュースを耳にしました。四季の移り変わりは早いもので私の人生の終焉も、もうすぐそこまで来ているように感じて焦っているところです。それでは本日のお客様をご紹介致します。長久保赤水顕彰会会長、佐川春久様です。後程卓話を頂戴したいと思えます。宜しくお願い致します。

◎幹事報告—小澤啓一幹事

- ・いわき平東ロータリークラブ、いわき内郷ロータリークラブから10月プログラムが届いております。
- ・福島命の電話よりパンフレットが届いています。
- ・米山記念館より資料が届いています。
- ・事務局の金成さんがはもう少しで退院と聞いていますのでご報告致します。

◎各委員会報告

◇出席委員会—高萩勝利小委員長

本日の出席状況は下記の通りです。本年度の平均出席率は78.26パーセントです。

◇スマイルボックス委員会—蛭田 淳副委員長

・長久保赤水顕彰会会長佐川春久様のご来訪を歓迎して。越田和会長、星副会長、嵐会長エレクト、小澤幹事、金成(通)、蛭田(淳)、佐藤(政)、木幡、高萩、鈴木(秀)、清水、鈴木(修)、大平、渡邊公平パストガバナー、富澤、高橋、洪佐、柏原、相原、白井、赤津(善)、木村(義)、鈴木、荒川(義)、川口各会員

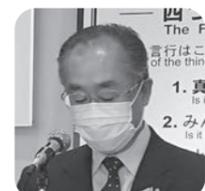
- ・本日早退ごめんなさい。 齊藤会員
- ・第151回ゴルフ愛好会コンペで優勝させていただきました。 川口登志雄会員

◎鈴木修一郎会員へ御見舞

入院されていた鈴木修一郎会員へ会長から御見舞をお渡し致します。前の方へどうぞ。

◎ゲスト紹介—鈴木修一郎会員

本日ゲスト卓話をされる佐川春久様をご紹介致します。佐川様は長久保赤水顕彰会の会長をされております。私達が知っている日本地図は伊能忠敬だと学校で習ったと思います。それよりも40年前に長久保赤水が日本地図を作って、それを一般庶民が観光マップとして利用していたそう



です。この度、国の重要文化財に693点が指定されました。近くの高萩市から出たということは素晴らしいことだと思えます。佐川様の出会いは渡邊公平パストガバナーの奥様の裕子さんが長久保赤水顕彰会に入っていたため、地図やパンフ等が届きこのような素晴らしい資料で卓話をお願いしたらと渡邊公平パストガバナーに言われ連絡を入れさせていただいた所、快くお受けいただきました。この地域の歴史を知る為に非常に大事な事だと思っています。佐川先生本日は宜しくお願い致します。

◎ゲスト卓話



長久保赤水顕彰会

会長 佐川 春久 様

皆さん、こんにちは。長久保赤水顕彰会会長の佐川春久と申します。

只今皆様に資料をお配り致しました。その封筒に表に今年の3月19日に国の文化審議会が文部科学大臣に対し、国の重要文化財に答申され本日9月30日に官報告示が出て今日から正式に国の重要文化財となりました。お配りした資料に「りゅうのひかり」という絵本が出ております。これは福島県の関ヶ原で不思議な現象があるということ。長久保赤水が



日本地図の中に書いてあります。絵本の絵は時崎清さん、解説は夏井芳徳先生、帯紹介は磯田道史先生がされております。

ながくぼ せきすい
長久保 赤水 (江戸時代、1717年~1801年)

長久保赤水は、江戸時代の享保2年(1717)に現在の高萩市赤浜に生まれました。赤水は、名を玄珠(はるたか)、通称源五兵衛(げんごべえ)といました。9歳の時に母を、11歳の時に父を亡くした赤水は、継母に養育され、下手綱にあった鈴木玄淳(すずきげんじゅん)の塾に通って一生懸命に勉強しました。その後、水戸の学者、名越南溪(なごやなんけい)に学び、才能を発揮します。35歳の頃から地図に興味を持ち、44歳の時、今の東北地方へ旅に出ます。また、

磯原村の運搬船が安南国(今のベトナム)まで漂流した際、日本へ送り返された船員の引取りを命じられ、長崎まで出掛けることになりました。赤水は、これらの旅路の中での体験や日本の国土の地理について学んだ内容を「東奥紀行」、「長崎行役日記」などの紀行文にまとめました。52歳の時、水戸藩の郷土格(武士待遇)となります。安永6年(1777)、61歳の時に、第6代水戸藩藩主徳川治保(とくがわはるもり)の侍講(じこう、教師)となり、江戸小石川の水戸藩邸に住むようになりました。農民出身の赤水は、農民の生活はとても苦しい状態にあるので、年貢(税金)の取り立てを厳しくしないようにという内容の「農民疾苦」(のうみんしゅく)を藩主治保に提出しました。安永8年(1779)に「改正日本輿地路程全図」(かいせいにほんよちろていぜんず)という日本地図(赤水図)を完成させ、翌年大阪で発行しました。これは、刊行日本図として初めて縮尺(1寸(約3cm)・10里(約40cm))を用い、経緯線を投影しています。赤水図の完成は、伊能忠敬(いのうただたか)の「大日本沿海輿地図」(だいにほんえんかいよちず)が完成する文政4年(1821)より42年も前のことです。赤水は世界地図、中国地図、中国歴史地図なども作成したほか、天文や海防、農政などに関する多くの書物を著し、享和元年(1801)、85歳で赤浜の松月亭で亡くなりました。



「赤水肖像」



改正日本輿地路程全図 (安永8年)

出席状況	正会員数	47名	本日の修正出席率	76.60%
	本日出席会員数	36名		